



ヤマハデジタル音楽教材「うた授業」 常時活動の活動案

※ここでは体験版で公開している下記の2つの常時活動の活動案を収録しています。

「おてぶし遊び」
「5パターンリズムⅠ」

■ 常時活動の活動内容一覧

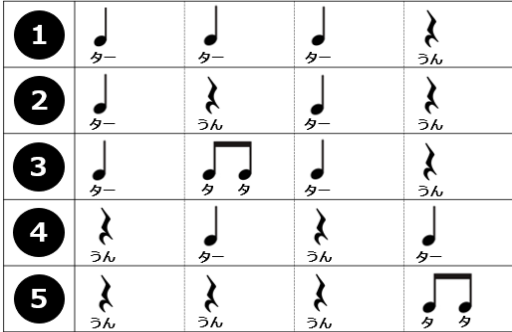
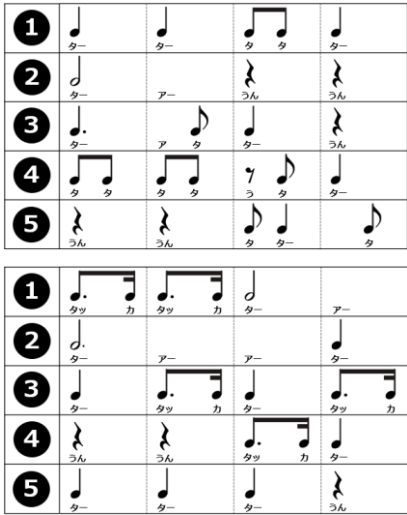
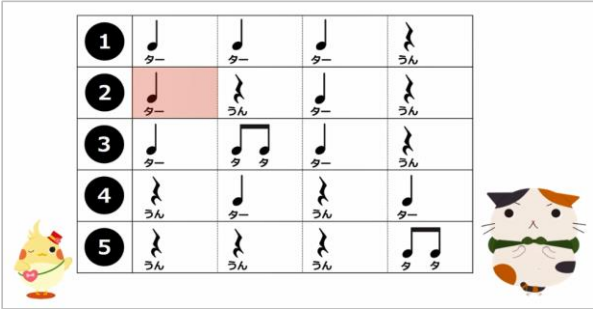
No.	活動名	所要時間 (分)	対象	大切にしたい学ばせ方	よりどころにする要素や仕組み	こんな時に実施するのがおススメ	発展的な学習の例
1	1 拍目を見付けて	3	全学年	拍に合わせて手を動かす活動を通して 1 拍目に気付く	速度、拍	・ 拍感を育てたい ・ 集中力を高めたい	・ いろいろな楽曲で活動する (4 分の 3 拍子の楽曲 など)
2	くるりん手合わせ	5	全学年	2 人組で拍に合わせて体を動かす活動を通して、4 拍の拍感を育てる	速度、拍	・ 拍感を育てたい ・ コミュニケーションを活発にしたい	・ いろいろな楽曲で活動する (4 分の 3 拍子の楽曲 など) ・ 手合わせの動きをアレンジする
3	さんぽジャンケン	5～10	全学年	仲間と関わりながら、拍に合わせて表現する力や 1 拍目に気付く力を育てる	拍	・ 拍感を育てたい ・ コミュニケーションを活発にしたい	
4	おてぶし遊び	5～10	全学年 (高学年)	楽譜を用いてリズム読みをしたり、ゲーム性を取り入れたりすることで、歌唱表現に必要な知識や技能を身に付ける	音色、速度、音の重なり	・ キーを上げて発声練習したい ・ コミュニケーションを活発にしたい	・ 4 拍ずらしの輪唱で歌う ・ 音を重ねて歌う (例えば最初の音を「ソ」と「ド」にする)
5	拍とピタリンコ 1	10	全学年	体を動かす活動を通して、拍との一体感を味わう	音色、速度、拍	・ 拍感を育てたい ・ 表現力を育てたい ・ 集中力を高めたい	・ 1 拍目の人だけが座る ・ 文字数を変えて活動する
6	拍とピタリンコ 2	10	中・高学年	1 人 1 音ずつ音階の音を表現することで、音程感や拍感を育てる	音階、拍	・ 拍感や音程感を育てたい ・ 集中力を高めたい	
7	5 パターンリズム 1	5	全学年	楽譜に目を向けながらリズムを声で表現することで、音楽的な知識を高め、リズムを表現する技能を育てる	リズム	・ 読譜力やリズム感を育てたい ・ 集中力を高めたい	・ オリジナルのリズムを考える
8	5 パターンリズム 2	10	全学年	仲間との関わりを通してリズム感を高めたり音を重ねたりする活動を行うことで、音楽づくりにもつながる力を育てる	リズム、音の重なり	・ 読譜力やリズム感を育てたい ・ 音の重なりを体験させたい ・ コミュニケーションを活発にしたい	・ オリジナルのリズムを考える
9	なべなべ輪唱	10	全学年 (高学年)	体を動かしたり、輪唱や様々な音の高さで歌う活動を通して、歌唱の技能を高める	音の重なり、音楽の縦と横との関係	・ 輪唱で音の重なりを体験させたい ・ 歌唱の技能を高めたい ・ 集中力を高めたい	・ 完全 4 度、5 度、完全 8 度の合唱で歌う
10	ハローハローでハーモニー	10	全学年 (高学年)	教材の a - b - a 構成を生かしてハーモニー感を育てたり、仲間との関わりを深めたりする	音色、音の重なり	・ 合唱で音の重なりを体験させたい ・ 歌唱の技能を高めたい ・ コミュニケーションを活発にしたい	

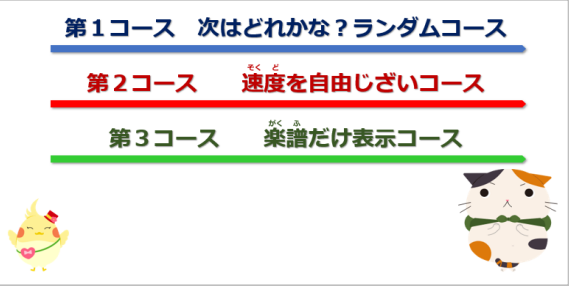
活動名	おてぶし遊び	使用楽曲	「おてぶしてぶし」（わらべうた）
活動ポイント	わらべうたは使われている音が少ないという特徴があり、『おてぶしてぶし』も、どの子も無理なく歌うことができます。また4分休符が連続している部分で、様々な動きを付けながら休符を楽しむこともできます。ここではゲーム性を生かしながら、様々な音の高さで歌うこと、ハーモニーを感じて歌うことなどを楽しみながら活動していきます。歌唱の授業にもつなげることができる常時活動です。		
関連する共通事項	音色、速度、音の重なり		

No.	活動内容	学習のねらい・ポイント	使用画面・機能	備考
1	「おてぶしてぶし」の音符と休符の種類を確認する 「おてぶしてぶし」の当てっこクイズの動画のお手本を見る。 「おてぶしてぶし」の楽譜を見て、音符や休符の種類を考える。	楽譜の画面で音符や休符の種類を確認します。それぞれの名称や長さなども合わせて確認してください。	楽譜画面 教材選択（①を選択）	デジタル教材の「楽譜」のタブをクリックして楽譜画面を開きます。右上の「教材選択」で①を選択してください。
2	音符と休符の種類を確認し、「おてぶしてぶし」をリズム読みする 4分音符、8分音符、4分休符の3種類であることを確認する。その上で、「おてぶしてぶし」をリズム読みする（8分音符は「ティティ」、4分音符は「ター」、4分休符は「スン」）。	・ リズム読みや階名唱で楽譜に注目する いろいろなリズムの読み方がありますが、ここではハンガリーのコダーイメソッドのリズム読みで実践してみましょ。楽譜を見て指でなぞりながらリズム読みをします。慣れてきたら、「4分音符チーム」「8分音符チーム」「4分休符チーム」の3つのグループに分けて、リズム読みをやってみるのもおもしろいでしょう。 活動に余裕があれば、階名唱を取り入れてもいいでしょう。	楽譜画面 歌詞／ドレミ切り替え 楽曲の音源を再生	デジタル教材では「楽譜」画面の右下の「表示」の「ドレミ」ボタンをクリックすると楽譜上に階名が表示されます。

No.	活動内容	学習のねらい・ポイント	使用画面・機能	備考
3	休符にオリジナルの動きを付けて歌詞で歌えるように練習する お手本の歌を聴いて歌詞で歌えるように練習する。歌えるようになってきたら4分休符2つのところでオリジナルの動きを付ける。 	・休符を意識する 歌詞で歌えるように練習します。それほどリズムも音も複雑ではないのですぐに歌えるようになると思います。歌えるようになったら、「いや」の後の4分休符2つのところでオリジナルの動きを入れる活動をしてみましょう。体を動かすので安全面には配慮しましょう。	楽譜画面 歌詞／ドレミ切り替え 楽曲の音源を再生	
4	ゲームをしながら何度も歌う 「おてぶしてぶし」を歌いながら当てっこクイズのゲームをする。手に握れるくらい小さな消しゴムや小石などを用意し下記の手順で活動する。 ①両手を合わせて手を動かしながら歌う ②「いや」で小さな消しゴムなどをどちらか片方の手に握る ③休符の間にどちらの手に入っているか考えて指し示す ④当たっていたら「おおあたり」、はずれていたら「おおはずれ」と歌う  	・ゲームをしながらいろいろな歌い方に挑戦する 手遊びをしながら歌うことで、子ども達は何度も楽しんで歌うことができます。 速度を速くしたり、音程を高くしたり、音を重ねたりすることで、歌唱技術も高まっていきます。	楽譜画面 教材選択（②を選択） 楽曲の音源を再生 テンポ変更機能 キー変更機能（ガイド画面）	デジタル教材で「楽譜」画面の右上の「教材選択」を②にして活動しましょう。②の方は「いや」の後の休符部分が長くなっていて、当てっこクイズで子ども達が考える時間を確保しています。  「ガイド」のタブをクリックして画面を切り替えます。ここでは音の高さを変えることができます。右下の「キー」を上げたり、左下の「テンポ」を速くしたりすることで活動が盛り上がります。 

活動名	5 パターンリズム 1	使用楽曲	—
活動ポイント	5つのリズムパターンを声で表現していきます。リズムは手拍子で表現することが多いですが、声で表現することは意外と難しいものです。しかし、声で表現することは、楽譜や音符に目を向ける意識を育てるためにも効果があります。また、2分音符や全音符のように長い音を表現することにも適しています。リズムの唱え方は様々な方法があるので、先生方が実践しやすいようにアレンジすることをおすすめします。ここでは限られたリズムパターンしか示していませんが、リズムパターンを子ども達に考えさせる場面を設定すると、音楽づくりにもつながる活動になります。		
関連する共通事項	リズム		

No.	活動内容	学習のねらい・ポイント	使用画面・機能	備考
1	5パターンリズムをお手本のまねをして言う 動画のお手本のまねをして5つのリズムパターンを声で表現する活動。 拍に合わせてリズムを言えているか確認する。 	お手本のまねができていないかを観察してください。リズムだけでなく拍もピッタリ合っていることがポイントです。 ここでは4分音符の音価を意識させるために「ター」という唱え方をしています。リズムの唱え方は1つの例なので、実態に応じてアレンジしてもよいでしょう。		※発展楽譜1、発展楽譜2も適宜ご活用ください。 
2	お手本なしでリズムを言う 動画の「1番どうぞ・・・」の合図と拍の音に合わせて、楽譜を見ながら①～⑤のリズムを順番に言う。 	先生がウッドブロックなどの打楽器を使って拍を刻みながら活動する時は、「1番どうぞ」というかけ声も拍に合わせて4拍で伝えてあげるようにしてください。		

No.	活動内容	学習のねらい・ポイント	使用画面・機能	備考
3	①～⑤のリズムを通して言う 拍の音に合わせて①～⑤のリズムを通して言う。 	①から通している時に速度が速くなることがあるので、一定の速さで表現できるように注意しましょう。		
4	上級編に挑戦する 3つのコースの上級編に挑戦する活動。 ・第1コース ①～⑤のリズムを順番に言うのではなく、ランダムに番号を指示する活動。先生が拍の音に合わせて「2番どうぞ」「4番どうぞ」「1番どうぞ」・・・といった感じに指示を出すのがポイント（お手本動画1を参照）。 ・第2コース 速いテンポやゆっくりのテンポにするなど速度を変えて活動する。 ・第3コース 画面上の「ター」や「うん」「タタ」といったリズム読みの表示を消して、楽譜のみでリズム読みできるようにする活動。 	・第1コース  お手本動画1 このように、かけ声も4拍で伝えてあげましょう。  お手本動画2 このように次々とリズムを指定するやり方もあります。ランダムコースは子ども達が混乱しますが、上手くいかないことも楽しめるようにしましょう。ここでは正確さも大切ですが、先を読むことを楽しみながら活動します。 ・第2コース デジタル教材では楽譜画面の左下の「テンポ」ボタンで速度を変えることができます（10%きざみ）。  ・第3コース デジタル教材では右下の「リズム読み」ボタンをオフにすると画面上のリズム読み表示が消えます。その状態で活動をしてみましょう。 	楽譜画面 楽曲の音源を再生 テンポ変更機能 リズム読みON/OFF	いずれのコースもデジタル教材では「楽譜」タブをクリックして楽譜画面を開き、音源を再生して活動を進めます。音源はウッドブロックのクリック音のみが流れます。 